

経営比較分析表（令和元年度決算）

熊本県水俣市 国保水俣市立総合医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	18	対象	ド透訓	救 臨 感 災 地 輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
24,275	29,327	非該当	10：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
357	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	4	361
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般＋療養）
357	-	357

グラフ凡例
■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 令和元年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

I 地域において担っている役割

①過疎地域自立促進特別措置法に規定する過疎地域に立地で一般医療の提供を行っている。また中山間地域にへき地診療所（附属久木野診療所）も運営している。
②24時間365日の救急医療、小児・周産期医療の提供、災害拠点病院としての運営を行っている。
③高額医療機器の整備を計画的に行い高度医療の提供に努めている。
④地域医療支援病院の指定があり、地域の医療従事者の教育研修の拠点としての役割がある。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率及び医業収支比率共に100%を超え、累積欠損金も発生していないため、現状、経営状況は良好である。
病院利用率及び患者1日当たりの収益が平均値を下回っているが、令和元年度からハイケアユニット病床10床の稼働を開始した効果により、以前と比較すると改善傾向が見られる。
給与費比率、材料費比率が平均値より低く抑えられており、適正にコントロールできている。病院規模に相応する診療収入が得られたものと考えている。

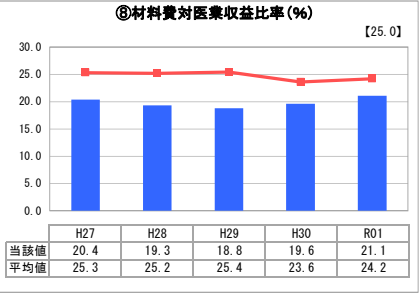
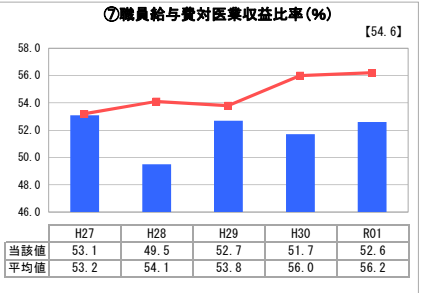
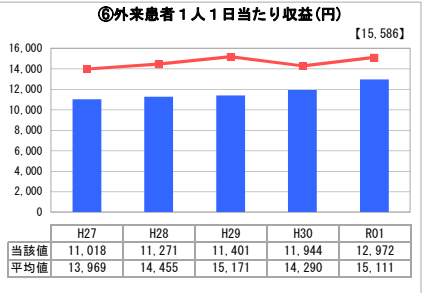
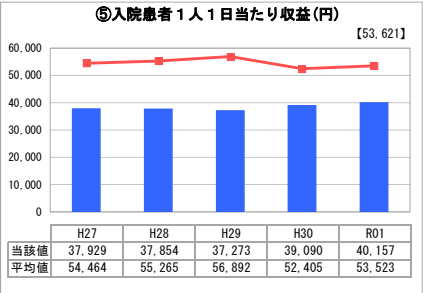
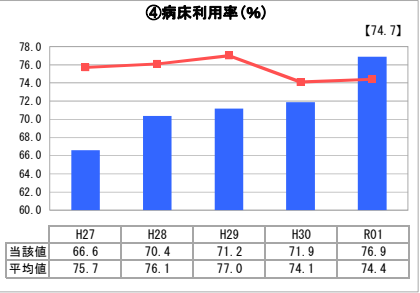
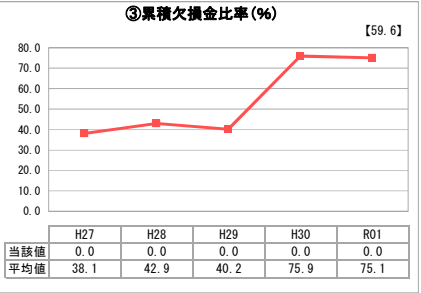
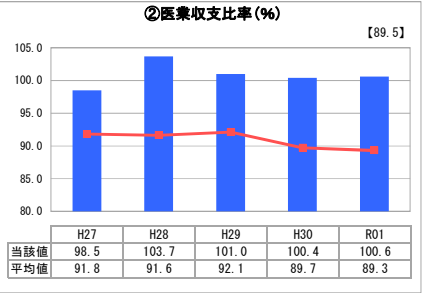
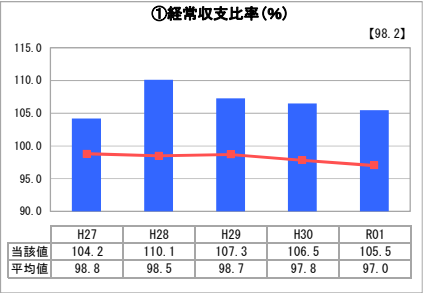
2. 老朽化の状況について

これまで、経営状況を見ながら計画的な更新投資を行ってきたが、それが減価償却に係る各種指標に表れているものと考えている。
しかし減価償却率については、平均値を上回っていることから施設及び備品ともに老朽化が進んできている状況にあり、今後老朽化した施設等の更新、改修について、経営状況を考慮したうえで計画的な検討が必要な課題であると考えている。

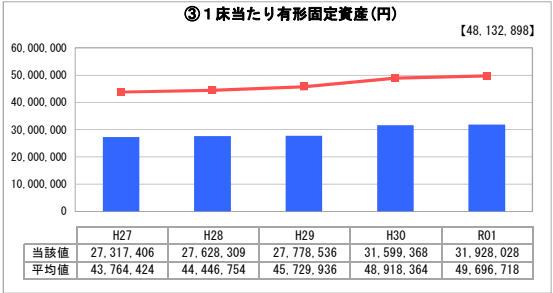
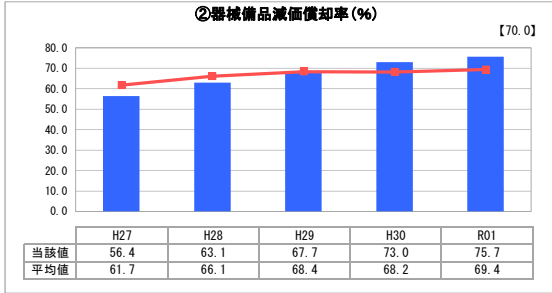
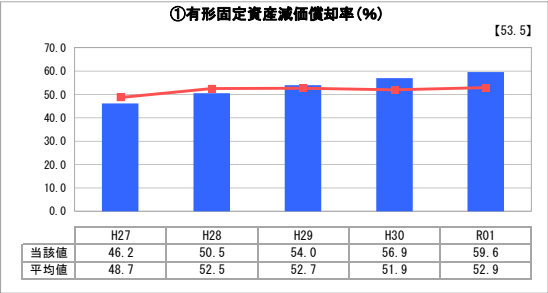
全体総括

現在のところ概ね良好な経営ができているが、今後、当院が位置する医療圏の人口減少は避けられない状況にあり、外部環境から医業収益の増は見込みにくい状況にあると考えている。
また、コロナ禍において通常診療と感染症対応の両立も課題であり、収益確保は更に難しいものとなっている。
今後、病院経営はさらに厳しいものになっていくと予想しているが、救急医療等の地域において求められる役割を維持・存続していくためにも経営基盤をより強固なものにする必要があると考える。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。